

# 横山 操 デッサン展

2010年3月27日(土)~4月16日(金) 会場：燕市産業史料館

## 初出「初期のデッサンと下図」

戦後を代表する日本画家の一人であり、燕市の名誉市民でもある横山操さんのデッサン展を開催します。

今回展示する作品群は、操さんが画家として名声を得るずっと以前のもので、二十歳前後に描かれたと考えられる、たいへん貴重で興味深い内容のものばかりです。中には、女性モデルをデッサンしたものや自画像と思われるものもあります。

これらの作品を燕市に寄贈してくださった方は、操さんの甥にあたる横山一男さん（埼玉県蓮田市）。

一男さんによれば、これらの作品は、戦後シベリアから帰国した操さんのもとへ送ろうとしたが、何らかの事情で届かなかったものだそうです。

その後も、絵を送ってほしいと、操さんから一男さんの母親（操さんの義姉）に何回か連絡があったそうですが、操さんが若いころの絵を処分しているとの噂を聞いていたため、それに応じなかったとのことでした。

本人のもとへ届いていたならば処分されていたかもしれないこれらの作品は、幸運にもこの世に残り、生まれ故郷の燕市へ寄贈されました。

戦後の日本画壇に新生をもたらした操さん。この作品群からは、その出発点となる若き日の息吹を感じることができます。



↑今回展示する作品の中の1つで、若き日の自画像と考えられるもの。

### 横山 操 デッサン展 ギャラリートーク

燕市長善館史料館長 吉田勝さん

- 期日 3月28日(日)    ○時間 午後2時から
- 場所 燕市産業史料館
- 申し込み 不要（入館券のみ必要です）

### ■横山 操 略歴

- 1920年 燕市（旧吉田町）に生まれる
- 1934年 画家を志して上京
- 1938年 「街裏」が第25回光風会展に初入選
- 1939年 日本画に転向。川端画学校に入学
- 1940年 「渡舟場」が第12回青龍展に初入選
- 1940年 召集され中国大陆各地を転職
- 1945年 終戦と同時にシベリアへ抑留される
- 1950年 帰国して再び上京
- 1962年 青龍社を脱退
- 1966年 多摩美術大学の日本画科教授となる
- 1971年 脳卒中で倒れ右半身不随に
- 1973年 制作中に再び脳卒中で倒れ死去
- 2000年 旧吉田町の名誉町民に

主催／燕市・燕市教育委員会  
会期／3月27日(土)~4月16日(金)  
休館日／3月29日(月)・4月5日(月)・12日(月)  
開館時間／9:00~16:30  
入館料／大人300円・小人100円

※土曜、日曜、祝日、燕市内の小中学生無料及び、  
小学生の付添保護者1名無料。

問い合わせ／燕市産業史料館  
燕市大曲4330-1 ☎0256-63-7666  
生涯学習課文化振興係  
燕市水道町1-3-28号 ☎0256-63-7002

産業史料館ホームページ／  
<http://www.city.tsubame.niigata.jp/info/shiryou/index2.html>

※掲載の画像を含む高解像度画像は史料館にお問い合わせください。